



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第 4 号
令和 元年
6月28日

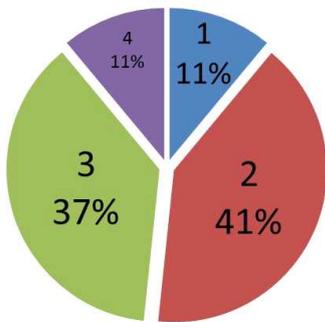
==教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』==

梅雨入り後、比較的晴天が続いており、今年の水泳の学習も順調に進んでいます。今週末からは梅雨空が戻ってきそうです。エアコンの稼働もそろそろ始まる時期です。1学期も残り1ヶ月を切り、まとめの時期になります。7月に入ると、「元気もりもりやまがたっ子」の収録があります。

安心して生活できる学校

アンケート実施

安心して生活できる学校になっているか？



5・6年生を対象に「安心して生活できる学校」についてのアンケート調査を実施しました。左はその結果のグラフです。

1安心 2ほぼ安心 3やや安心でない 4安心でない

安心、ほぼ安心を合わせると52%、「安心でない」と答えた子は48%という結果でした。

対象児童の入れ替わりがあるため、単純に数字のみを昨年と比較することは合理的ではありませんが、悪くなっていることは事実と言わざるを得ません。しかし、「だから今年の高学年児童はだめ」ということでもありません。どんな結果であろうと、これが実態なのですから、ここからスタートをしたいと考えます。

アンケートを個別に見ていきます。「安心できないこと」の記述には以下の項目がありました。

- こっちを向いてひそひそ話をする。
- 暴言や暴力
- 悪口（事実であることも事実でないことも）
- にらんでくる。
- 授業態度が悪い。
- 授業中に勝手に発言する。
- 呼び捨てや悪い言葉遣い
- いやなあだ名で呼ばれる。「やめて」と言ってもやめない。
- 廊下を走って遊んでいる。

これまで、「安心して生活できる美山小にしたい」と繰り返し児童には投げかけ、職員もベクトルを揃え、対応してきました。しかし、結果は厳しい現実を突きつけています。悪口やいやなあだ名、暴言や暴力は、「安心」から遠く離れた行動です。こういう事実が常態化しては、とても心穏やかに生活することはできません。「いじめ」につながってもおかしくありませんし、「いじめ」に至らなかったとしても、心を痛める事実が相当数あった(ある)ことは容易に想像できます。

こういう事実を見ていくと、これまで度々お伝えしている「差別や不合理を認め、存続させてしまう要因」である以下の4点を意識します。

- 誤解・偏見に基づく言動
- 世間体に左右される意識
- 間違った優越感に基づく意識
- 自己中心的な考え方

ひそひそ話は、誤解や偏見が原因だったり、悪口やにらむことは間違った優越感が関係したりします。呼び捨てやいやなあだ名は、自己中心的な考え方(自分さえよければいい、仲間がどう思うか考えない)が根底にありそうです。こういう現状を早急に改善させる必要を感じます。

しかし、あつという間に事態が好転する何か上手い手があるわけではなく、困っている児童一人一人の思いをよく聞き、一つ一つ地道に手を打っていくしかないと考えます。個別の対応とともに全体指導も重要です。決して諦めることなく、「安心して生活できる美山小」実現のため、努力を継続します。7月5日の授業参観後の学級懇談会では、実態をお伝えし、指導の方向をお伝えします。「先生、大丈夫」という言葉に隠された辛い思いや笑顔の裏にある絶望を見逃さない、組織としての気付きの力を高め、丁寧に対応していく所存です。(校長 河村 一彦)